

# フोगリアの施工方法

## 1. 材料の確認

まず施工に充分な量のタイルがあるかどうかを確認します。  
足りない場合は同じロットのタイル(同時期に製造されたもの)を注文、入手して下さい。  
同ロットのタイルが無かった場合は、入手後全体が均等になる様にミックスして下さい。

## 2. 下地の確認

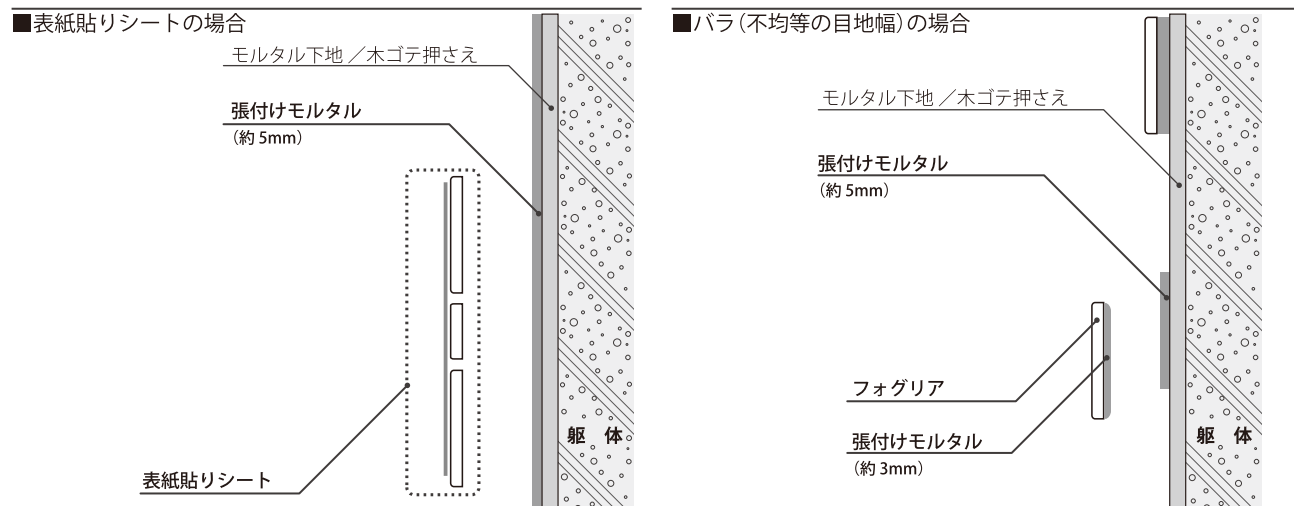
- a. コンクリートの浮き・ひび割れ・ジャンカ(※)等が無いを確認します。  
※ジャンカ; 打設されたコンクリートの一部に粗骨材が多く集まって出来た空隙の多い部分の事。
- b. 躯体が平面であることを確認します。  
凸面の場合はカップ掛けやハツリにより、凹面の場合は下地調整材の使用により、平面にして下さい。
- c. 表面のホコリ・白華(※)等は接着不良の原因になりますので取り除きます。  
※白華; 硬化したコンクリートの表面に浮き出る白い物質の事。炭酸カルシウムを主成分とする。

## 3. 墨出し

割付図面に合わせて タテ・ヨコ・円形等の墨出しを行います。  
形状が葉っぱの形なのでカット品の無い様に割付けます。

## 4. 施工 (施工場所が床及び壁のいずれであっても作業は同様です)

- 表紙貼りシートの場合・・・下地モルタル面に張付けモルタル(市販の圧着モルタル)を5mm程度塗り付け、  
タイルをたたき込んで張り付けます。  
この際、張付けモルタルの一回の塗付け面積は2m<sup>2</sup>程度とします。  
張付け終了後、水を含ませたスポンジで表紙を濡らして剥がし、タイルの目地調整をします。
- バラ(不均等の目地幅)の場合・・・下地モルタル面のタイルを張る所に張付けモルタル(市販の圧着モルタル)を  
5mm程度塗り付けます。更にタイルの裏面にも張付けモルタルを塗り付け  
タイルをたたき込んで張り付けます。



## 5. 目地詰め (タイルとタイルの間を目地剤以外の材料 [塗り壁材や塗り床材など] で仕上げる場合は、その材料の取扱方法をご確認ください。タイル施工後一日以上経過してから作業して下さい。)

タイル施工後1日以上経過してから目地詰めをします。  
目地材料は大きい骨材の砂が入っている商品を使用します。(例えばブリック目地等)  
(骨材が細かいと目地がひび割れる可能性があります)  
ゴム鏝(コテ)にて目地セメントを詰めます。詰め終わったら固まりきらないうちに、スポンジに水を含ませて、  
タイルの表面についている目地セメントを拭き取ります。

## 6. 清掃

目地詰め後1日以上経過してから、水洗いします。  
(水洗いしてもタイル表面のモルタルが残っている場合は酸洗いをします。この場合、酸が残らない様に十分な水で洗い流します。)